



K S M
MOTORSPORT

REPORT

2024



好調だった23年に引き続き 体制継続で24年へ

年間ランキング4位で終えた2023年から、チーム体制をそのまま継続し2024年シーズンもゼッケン293をつけ「BRMネットヨタ南国」

「BRMトヨタカローラ高知」として参戦いたしました。サスペンションを2022年から使用してきたティン製からAPEXi製へと変更。また、ブリヂストンタイヤの契約外チームとして、タイヤ供給のサポートを提供していただきました。チームのベースは2023年から引き継ぎ、パッケージングを強化し挑むシーズンとなりました。



THE FIRST

H A L F





前半戦

2024年のGR86/BRZ Cupも昨年に引き続き、5月スポーツランドSUGOで開幕しました。昨年は開幕で優勝を飾り、自信を持って挑みましたが、ダンロップタイヤ勢が予選で上位を占める結果となりました。2024年に投入したダンロップタイヤの新スペックタイヤの予選パフォーマンスに圧倒されポイントは獲得できたものの、第2戦以降も苦戦が予想される結果となりました。第2戦のオートボリスでも、ダンロップユーザーが猛威を振るい、予選で沈む分を、ブリヂストンタイヤのロングランベースで巻き返すというレースになりました。

第3戦、第4戦、富士は現行86（ZN8型）になってから

初の雨絡みのレースも経験し、ダンロップタイヤに対して大きくは離れずとも、追い越しされないようなレースが続きました。前半戦の十勝ラウンドまで、コンスタントにポイント獲得できましたが、表彰台までは遠い前半戦となりました。ドライバーもチームも大きなミスなく前半戦を戦い抜きましたが、タイヤの性能をフルで出し切ることに苦戦しました。ブリヂストン勢の中でも常にコンマ数秒の遅れをとっており、後半戦に向けての課題となりました。





	予選	決勝
Rd1 SUGO	13	9
Rd2 AUTOPOLIS	11	9
Rd3 FUJI	12	8
Rd4 FUJI	9	12
Rd5 TOKACHI	13	7

THE SECOND

H A L F





後半戦

1ヶ月半程度のブレイク期間を得て、後半戦となる舞台は第5戦岡山国際サーキットでした。前半戦の夏頃からストレートスピードの不調の疑惑があり、しばらく様子を見ていきましたが、後半戦から不調が顕著化し始めパフォーマンス不足に陥りました。できる限りの対策を練りながら第6戦鈴鹿サーキットでは今季最高順位の5位フィニッシュ。しかし、不調の根本的な解決には至ら

ず、スタートダッシュとブリヂストンタイヤの強みであるロングラン性能を発揮できるレース展開にも助けられたものでした。最終戦モビリティリゾートもてぎに向けては、できる限りの事にプラスしてTRA事務局（トヨタレーシングアソシエーション）も巻きこみ、本格的にマシンの不調を調査することができました。しかし結果的にはマシンの不調が治ることではなく、今シーズンのすべてのレースが終了しました。前半戦から苦戦が続き、1年を通してマシンの不調に悩まされるシーズンとなりました。来年にむけて原因の究明と、改善を急いでいます。



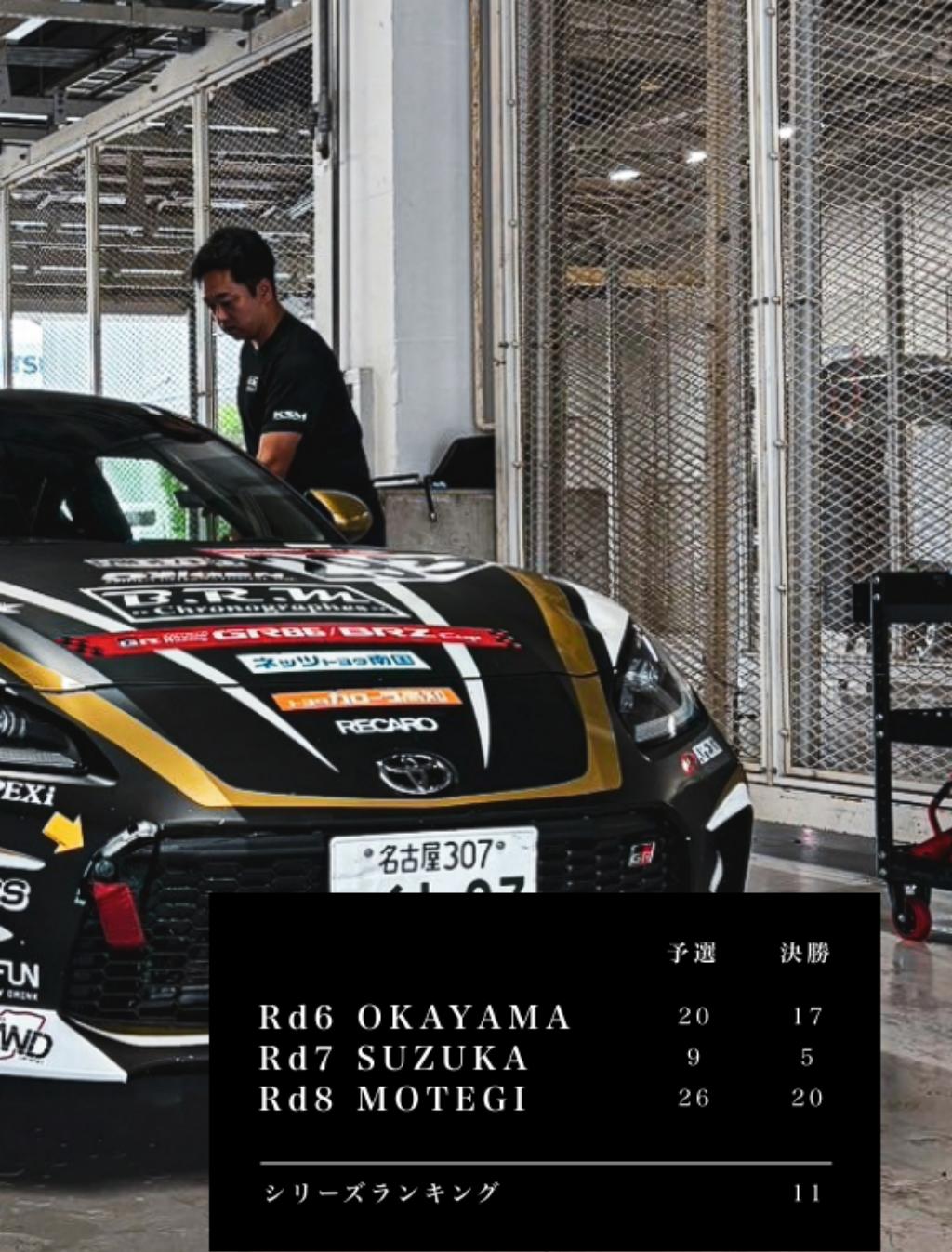
B.R.M
"Chronographes"

5ZiGEN
5ZiGEN INTERNATIONAL INC

GR86
GR86 BRZ Cup
293

NAPAC

ADVICS



	予選	決勝
Rd6 OKAYAMA	20	17
Rd7 SUZUKA	9	5
Rd8 MOTEGI	26	20



2025

BSタイヤと協力してチャンピオン獲得を目指す

クラス：プロクラス

ゼッケン：293

車両：TOYOTA GR86

ドライバー：岡本大地

メンテナンス：KSM

チーム名：TBA

タイヤ：ブリヂストン

来シーズンは、ブリヂストンタイヤとより協力体制を築き、タイヤテストを実施する際にもチームとして前向きに協力していきます。また、2022年から使用してきたレース車両を新車に入れ替え今シーズンの不調を払拭できるよう検討しています。チーム体制もさらに向かしシリーズチャンピオン獲得を目指します。

スポンサー



協賛メーカー

